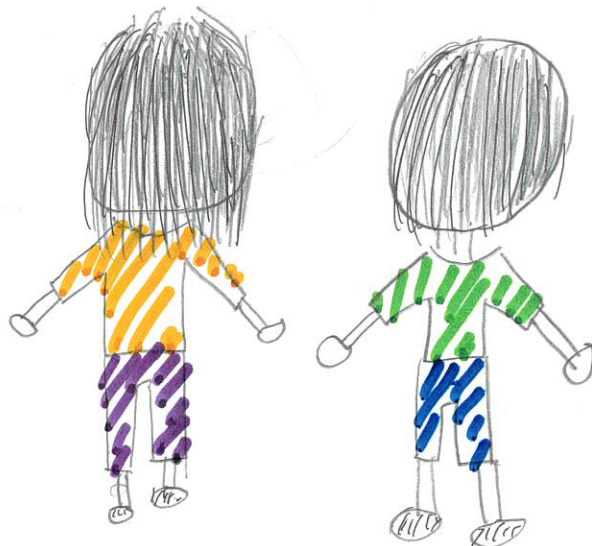


令和7年度
奈良市

子ども会議



令和7年度「奈良市子ども会議」子ども参加者名簿（応募受付順・敬称略）

グループ	番号	氏名	学校名	学年	年齢
A	1	ナムラ アイリ 南村 藍里	済美小学校	5	11
	2	ワタナベ 渡辺 ちひろ	三碓小学校	5	11
	3	ワカナ タイガ 若菜 大雅	ならやま小学校	6	11
	4	ミチハタ ユウ 道畑 優	奈良女子大学附属小学校	5	10
B	5	ニシムラ タイチ 西村 泰一	三笠中学校	2	14
	6	オオムカイ アキ 大向 彩希	三笠中学校	3	14
	7	アオヤマ コウヘイ 青山 幸平	飛鳥中学校	2	14
	8	ナカムラ ティファニー 中村 雅	大阪女学院中	2	13
C	9	アカサカ ヤマト 赤阪 弥真斗	春日中学校	2	14
	10	タニダ ニコ 谷田 仁胡	奈良女子大学附属中等教育学校	3	14
	11	イノウエ ワカ 井上 和香	若草中学	1	13
	12	ホウジョウ アラシ 寶上 新史	三笠中学校	3	14
D	17	ヤマナカ アリサ 山中 杏莉佐	奈良東養護学校（高等部）	2	16
	18	ニシダ アヤネ 西田 文音	奈良女子高等学校	2	16
	19	セキグチ マユコ 関口 真由子	京都教育大学附属高等学校	2	16
	20	トヨモリ マユコ 豊森 真由子	奈良女子高等学校	2	16

<テーマ>

「奈良市の防災を考えよう！」

子ども会議開催初年度から11回目を迎える令和7年度奈良市子ども会議では、災害時における自助・共助について、フィールドワークも行いながら、奈良市の防災について必要だと思いを話し合いました。Aの小学生グループ、B・Cの中学生グループ、Dの高校生グループに分かれて、様々な年齢・学年の立場から、子どもたち自身にできることを考えました。

A グループ

令和7年度 奈良市子ども会議 提言書

チーム【 **KidPo** 】のメンバー

あいあい、ミッチー、たいが、ちー

テーマ

子ども目線の

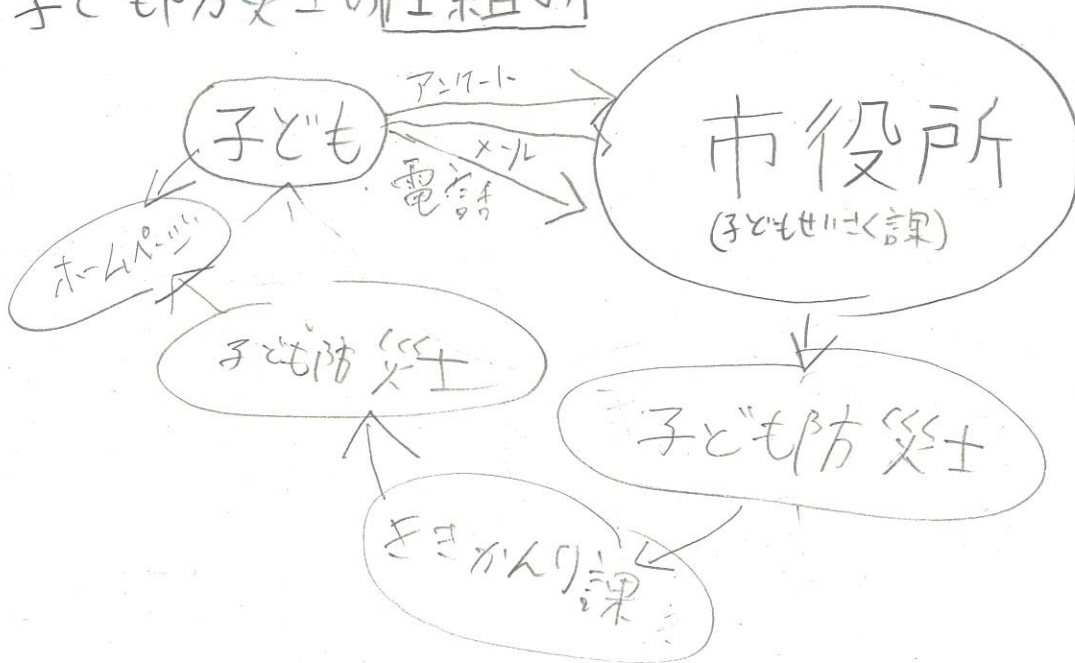
防災士 

背景（どうしてこのテーマを選んだのか？）

メンバーの1人が事前に防災について調べてきてくれて、そこで京都府の亀岡市の子ども防災士について知ったので教えてくれたのがきっかけです。実際には子どもが防災について知らないということがありますが、なぜならわたしは奈良市子ども会議にいったから防災のことについて知れたので、今回こねなからた子たちは防災について知ることができていない、分からないと思うので、子ども防災を作って、子どもがその防災への不安、きもん、意見を大人へ伝える活動か、子どもへ防災についての事を伝える活動かをしたほうがいいと考えます。

私たちが意見したいこと

子ども防災士の仕組み



- ・リスト
- ・学校で広める
- ・防災週間中に見学(参加費)
- ・家の周りのチェック

← ネットホム



B グループ

令和7年度 奈良市子ども会議 提言書

チーム【小麦】のメンバー

あまこうへいチキンていふあにー

テーマ

車中泊でのエコミークラス症候群を防ぐための対策

背景（どうしてこのテーマを選んだのか？）

熊本地震で197人が震災関連死で亡くなった人のうち
エコミークラス症候群で亡くなった人は車中泊が原因の人が
多い(33人)います。防げるんじゃないかと思ったから
なのでこれを防ぐと思いました

私たちが意見したいこと

私たちの班は2つのことに着目して考えてみることにしました。一つ目は車中泊をする点についてです。ここで車中泊のX-actとテックリットについて調べてみました。車中泊のX-actはあまりの目を気にせず過ごすことができてくることです。他にも赤ちゃんの鳴声、ペットの吠え声を気にしなくて済むということです。テックリットはエコに一度候群や一酸化炭素中毒になるリスクがあるということです。

以上のことから、ペット、赤ちゃんがいる家庭では車中泊で過ごすことでも良いが、周りの目が行き届く場所で過ごすようにすることを提案します。しかし、2つ目、特にいる高齢者、人の助けが下りた動機は、避難場所として過ごすことを提案します。

二つ目は、運動不足によるエコノミークラス症候群を引き起こすリスクを防ぐための提案を考えました。ここでは、3つのことを提案します。まず1つ目は、車中泊をして3人に2人飲を取りに来るということです。もし取りに来ない人がいたら、その人の体調が悪くなる取りに来ないの不安が分かるため、早期発見につながるようになります。

他にも、早期発見するためにも、2つ目見回り制度をすることを提案します。この見回り制度では、子供と大人が少しでも触れ合うこと、エコノミークラス症候群を防ぐために運動をするという目的をもって考えました。この見回り制度では、1日3回交代制度を設けて中高生のボランティアが車中泊をしている人に声をかけたり、ペットや赤ちゃんがいる家庭の負担をやらせるために、必要なものを届けてあげることをします。

3つ目は、避難所にボッチャやトランプなどの遊び道具を設けるということを提案します。

だから、私たちの班は、安心して過ごせる避難所とは車中泊の見回り制度、ボッチャやトランプなどを設けることを提案します。

C グループ

令和7年度 奈良市子ども会議 提言書

チーム【 柿アケ↑ 】のメンバー

宝上新史、赤阪 弥真斗、谷田 仁朗、井上 和香

テーマ

全世代(特に子ども)に防災を知ってもらうために、防災に関する体験をやってもらい、防災について、深く知ってもらおう!

背景(どうしてこのテーマを選んだのか?)

防災についてあまり知る機会がなく、座学では、子どもには分かりにくく、興味も湧かない。また、いざとなつたときに、頭では分かるが、動けないということを避けるため、ゲームにし、楽しみながら防災を体験してもらい、考えるきっかけとなれば"いいな"と思ったから。

4つの体験スペースに分けて、五感を通じて防災を体験しよう！

① 避難を再現した巨大迷路を作り、中で防災クイズを解く。

→ 実際に「逃げる」というのを体験してもらう。かつ、楽しみながら防災について知るチャンスを作る。

② 奈良市をテーマとしたVRをつくる。

→ やはり、避難経路を決めておいても、実際に災害がおきたとき、道が使えないことがある。危険な箇所が出てくる。そのため、自分たちが普段暮らしている場所が災害になった想定をVRで体験してもらう。

③ 曲に合わせた「心臓マッサージ」の体験

→ 「心臓マッサージ」は確かな知識と、強い力が必要で、また1分1秒が生死を分けるため、子どもから大人まで体験しておくことが必要だと考えた。また、リズムが、「ア>パ>マ>のマーチ」や「トクえんのうた」だ」ということも知ってもらえる機会にある。

④ 非常食を食べてみよう！！

→ 災害時の非常食は食べる機会が少いため、実際に食べてもらい、味を知ってもらう。

非常食を配る余裕がなければ、期限が切れたものを使用したり、限定の品までだと「でも良いと思う」。

D グループ

令和7年度 奈良市子ども会議 提言書

チーム【 JK 】のメンバー

まゆ、あやね

ありさ(あーちゃん)、まゆこ(せきー)

テーマ

災害時の情報不足
解消について

背景(どうしてこのテーマを選んだのか?) 私たちが意見したいこと

私たちは災害時の情報不足の解消について提案します。
なぜなら、災害に対する正しい知識を付けていないと、災害時に冷静になれず判断を誤り、命を落としてしまう方が多数いるという課題があるからです。
情報不足の具体例として、災害時に避難所の位置が把握できておらず、逃げ遅れて被害に巻き込まれる等があります。
この事から、命を守るためには災害に対する正しい知識をつけることが重要だと考えました。
私たちのような子どもも正しい知識を付ける手段として、ゲーム感覚で楽しみながら避難所などの情報を知ることができ、さらに、ポイントと景品を交換出来るシステムを採用したアプリを開発し、これによりアプリを使用したいという意欲を高め、アプリの使用率を高めることが可能だと考えました。
このような方法で、災害時の情報不足を解消することを提案します。

私たちが意見したいこと

※前ページに記入済み



令和7年度「奈良市子ども会議」集合写真

第1回奈良市子ども会議開催時撮影（令和7年7月25日）